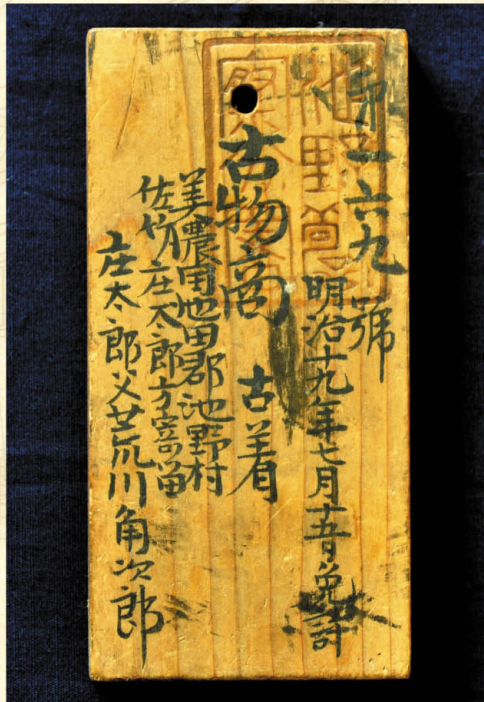


池野の歴史を物語る免許証

資料提供 荒川覚之進
文 今西 龍雄



池野の天満神社を少し南に行つた所に今利屋さんという呉服店があります。この店の一隅には「今利屋」の歴史を物語る十数点の品々が置かれています。その中に、この店のみならず池野の街の歴史を物語る品物がありました。それが写真の古物商の免許証です。この免許証の発行日は明治19年7月15日となっています。この免許証こそ池野の街の歴史を物語っているのです。

江戸時代、池野は池田野新田と呼ばれていました。この名前から分かるように池野は水田を拓くために江戸時代に新しく開墾された土地だったの

です。そして、その中心は池野追分（下の写真）から「雲上の桜」で有名な毘沙門院を通り現在の保健センターに通ずる巡礼街道沿いにある40戸前後の小さな村でした。その池野が爆発的に発展し今日の池野の街並みが形成されたのは明治17年に始まります。それまで隣の神戸村に店を出していた大垣や赤坂の商人たちがこぞって池野に店を移したからです。

隣の神戸村は江戸時代より市が開かれ、大垣の商人たちも店を構えるほど賑わっていました。けれども、よその商人に利益を奪われることに快く思わなかった神戸の商人たちは彼らに税を課し、さらにその額を増やそうとしていました。そこで商人たちが目を付けたのは池野村でした。ちょうどそれは池野追分から北の揖斐街道と巡礼街道が整備された頃でした。池野村に相談したところ場所代はいらぬという返事で、明治17年、池野追分の近くに市のための小屋が建てられ64人の大垣の商人たちが店を開きます。そして5年後の明治22年には揖斐街道沿いに200軒近い店が立ち並び急速に池野は発展したのです。

この免許証にある荒川角次郎さんは現在の今利屋さんのご当主覚之進さんの曾祖父

（「ひいおじいさん」に当られます。角次郎さんはもともと大垣の久瀬川町で呉服商をしてみえましたが新開地池野に店を移され、屋号はそのまま引き継いで今利屋とされました。この名前は大垣の店で陶磁器も扱ってみえたので伊万里焼にちなんで付けられた名前だそうです。

明治17年に大垣の商人たちによってスタートした池野の街並み、そして明治19年に発行されたこの免許証、それまでは大垣に店を構えてみえた今利屋さん、これらはまさに池野の街の歴史そのものを物語っているのです。

昨年11月、今利屋さんは町の商工会館で店に代々伝わる品々を展示して創業125周年を記念されました。



現在の池野追分
向って左の道が揖斐街道、右が巡礼街道

協力 郷土史の会